

令和6年度の決算状況(水道事業)

(1)総括事項

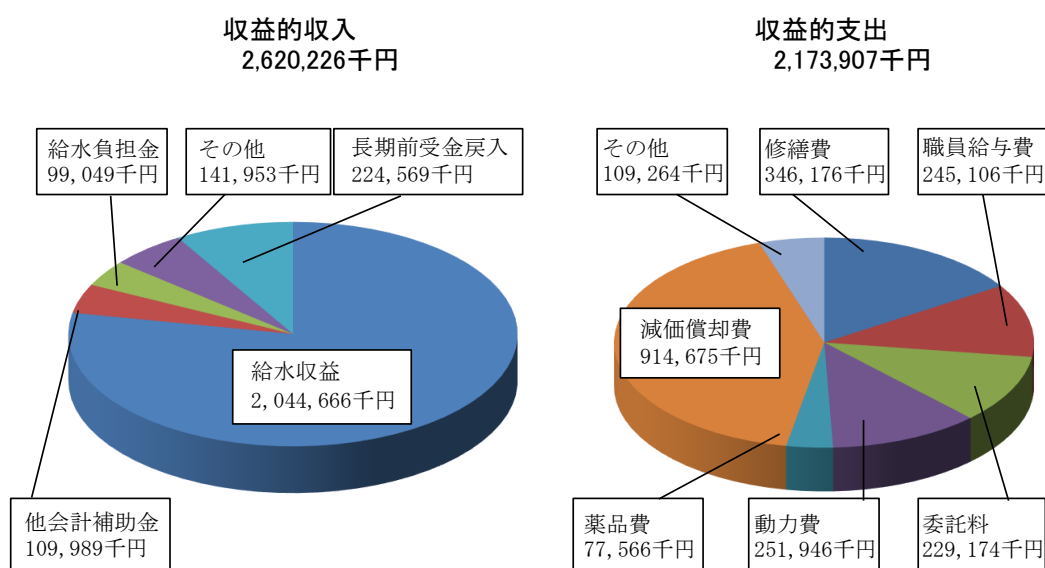
水道水に含まれるPFOS・PFOA濃度の低減対策については、国の暫定目標値(50ng/L以下)を超過しないよう、曝気槽に設けた活性炭による浄化システムの維持管理を適切に実施しました。さらに、三井水源地の中期的水質改善対策として、PFAS処理技術に関する知見収集に努めつつ、各務原市水質改善対策委員会を設置し、新たな浄水処理施設整備の方向性を決定するなど、令和8年度中の運用開始に向けて着実に事業を推進しました。

収支状況(消費税抜き)では、収益的収入である水道事業収益のうち、給水収益が前年度より140万5千円、その他の営業収益が前年度より882万7千円それぞれ減少しました。また、他会計補助金1億998万9千円の収入があり、水道事業収益決算額は26億2,022万6千円となり、前年度に比べ1,245万円の増加となりました。

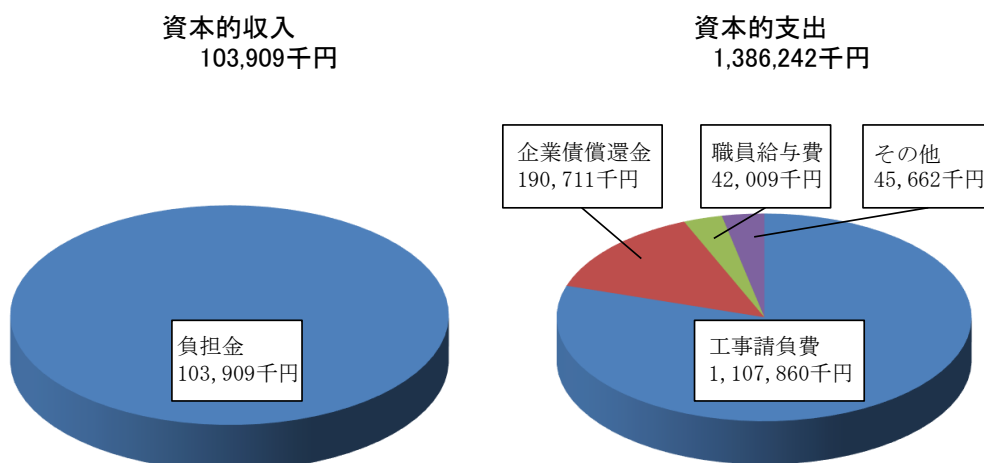
収益的支出である水道事業費用では、修繕費が前年度より6,550万8千円減少しましたが、薬品費が4,027万9千円、委託料が2,435万3千円、減価償却費が2,592万3千円増加したことなどにより、水道事業費用決算額は21億7,390万7千円となり、前年度に比べ2,846万1千円の増加となりました。

この結果、当年度純利益は4億4,631万9千円で、前年度に比べ1,601万1千円の減少となりました。このうち9千万円については減債積立金に処分し、翌年度の企業債償還金の財源に充てる予定にしています。

(2)収益的収入及び支出の内訳(消費税抜き)



(3)資本的収入及び支出の内訳(消費税込み)



資本的収支不足額の12億8,233万3千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額9,440万9千円、減債積立金1億9千万円、建設改良積立金2億7千万円、過年度分損益勘定留保資金7億2,792万4千円で補てんしました。

令和6年度の決算状況(下水道事業)

(1) 総括事項

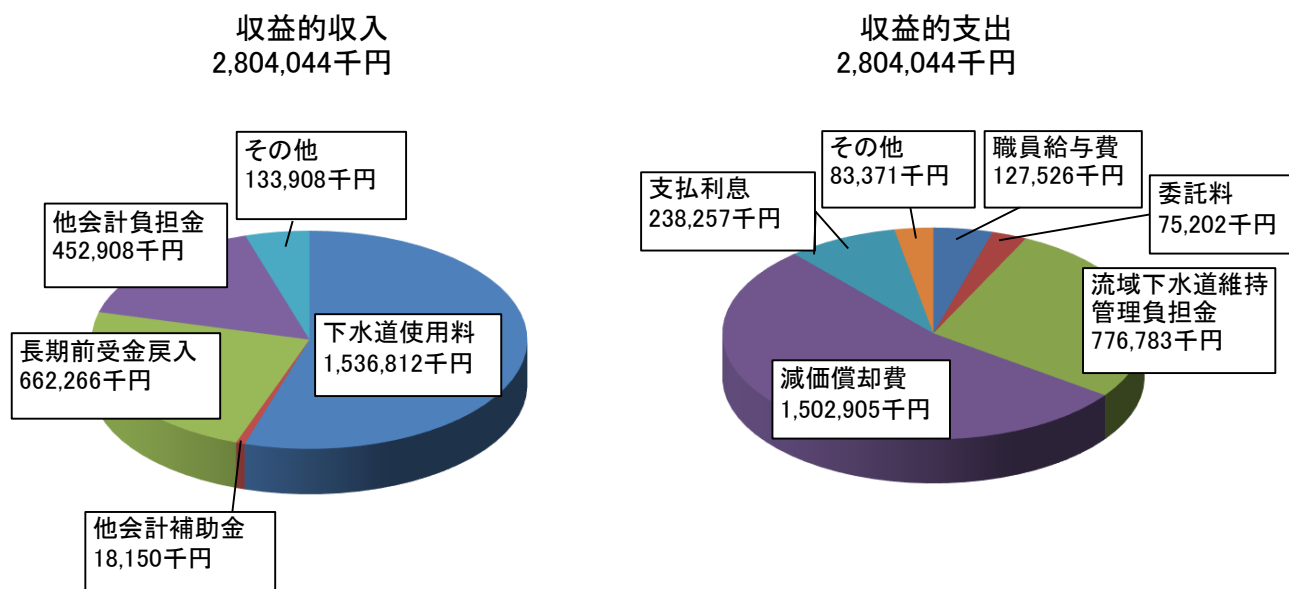
下水道は、公衆衛生の向上や快適な市民生活に不可欠なライフラインです。下水道事業を将来に亘って安定的に運営していくことができるよう、「各務原市下水道事業経営戦略」に基づき、下水道施設を適切に維持管理し、汚水については未普及解消や長寿命化・幹線管渠の耐震化、雨水については浸水対策を、着実に実施していきます。

令和6年度の汚水建設改良事業では、蘇原第2処理分区第1工区管渠埋設工事などの未普及解消事業を着実に実施するとともに、長寿命化事業として緑苑処理分区管渠布設替及び更生工事などを、耐震化事業として入会柿沢幹線外マンホール管口耐震化工事を行いました。また、雨水建設改良事業については、鵜沼古市場第3雨水幹線築造工事などの排水路整備のほか、雨水流出抑制のための山の前4号雨水調整池(郷戸池)整備工事などを実施しました。

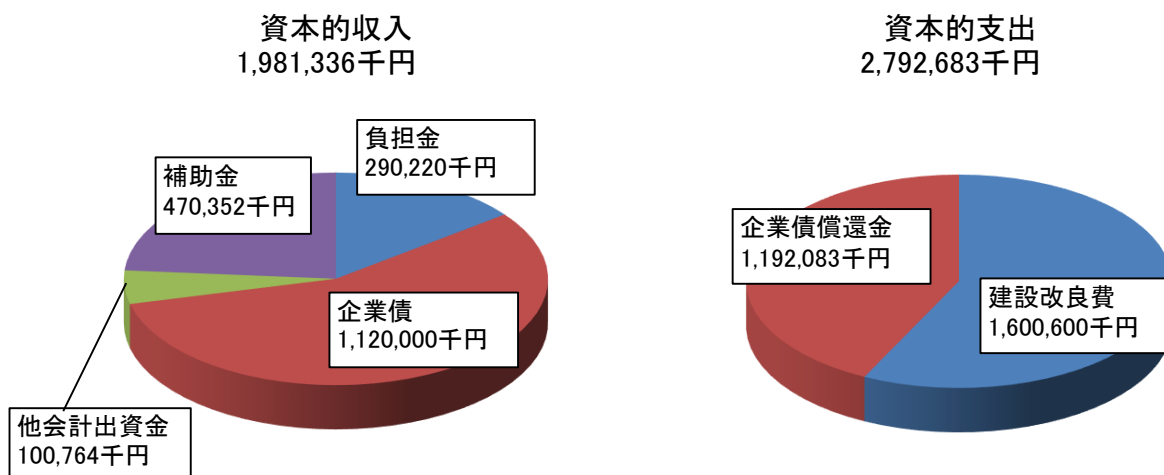
令和6年度の収益的収支状況(消費税抜き)については、下水道事業収益が28億404万円、下水道事業費用が28億404万円となりました。

この結果、当年度純損益はありませんが、下水道使用料だけでは不足する財源を一般会計からの繰入金で補填しているため、地方公営企業の原則である独立採算の達成に向けて、今後も取り組んでいきます。

(2) 収益的収入及び支出の内訳(消費税抜き)



(3) 資本的収入及び支出の内訳(消費税込み)



資本的収入額(翌年度に繰り越される支出の財源に充当する額 2,891万を除く)が資本的支出額に対して不足する額8億4,025万7千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,086万4千円、繰越工事資金3,367万7千円、過年度分損益勘定留保資金5億5,367万2千円及び当年度分損益勘定留保資金1億8,204万4千円で補てんしました。